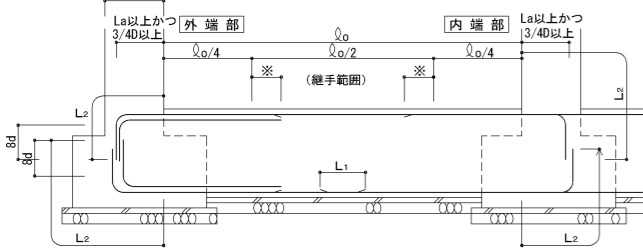


新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

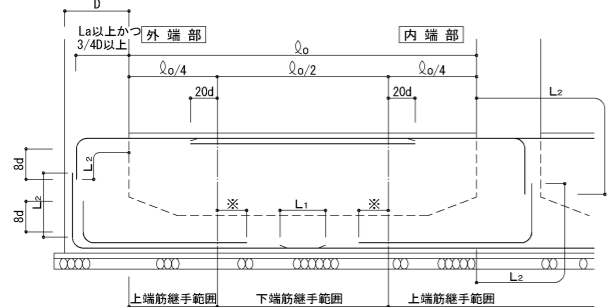
4. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)
(長期荷重が支配的な場合の継手は6. (2) 大梁継手位置とする。)



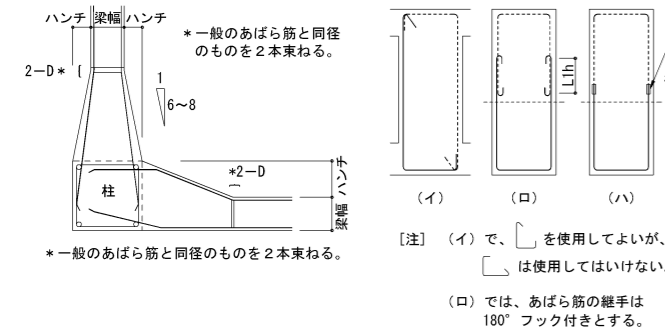
※主筋のカットオフ長さは $l_0/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

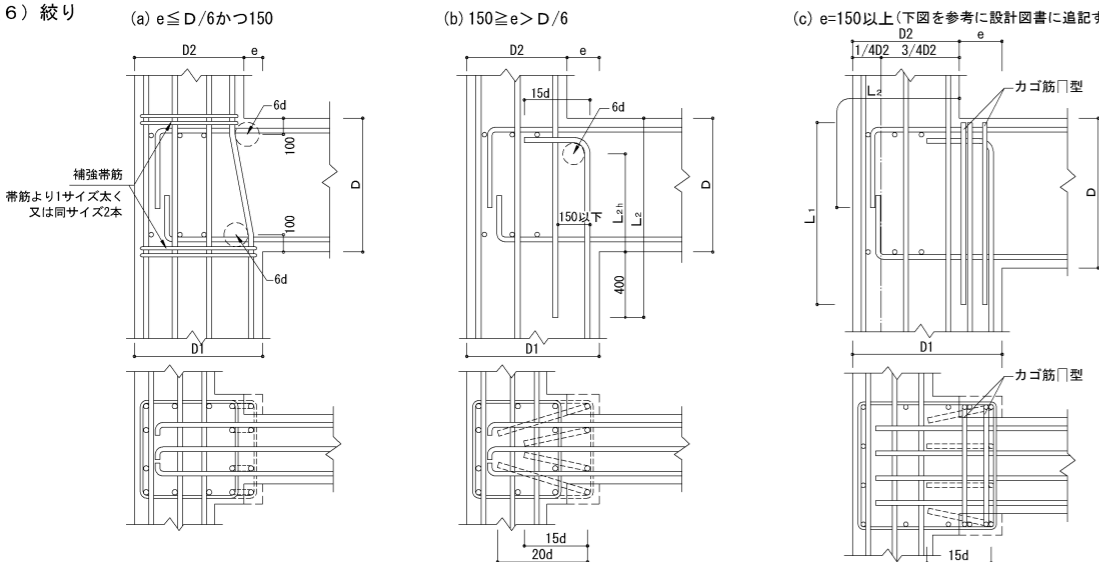


※主筋のカットオフ長さは $l_0/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

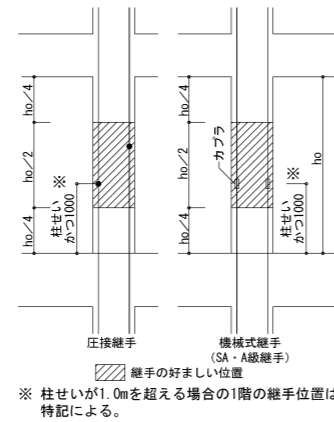


(6) 絞り



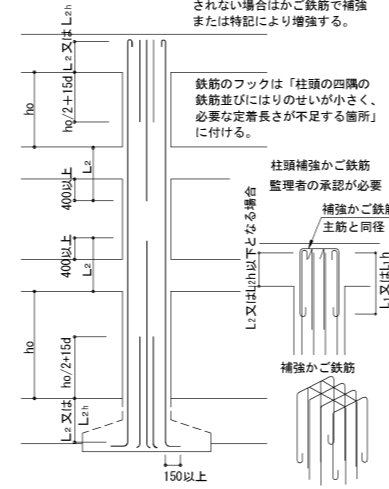
5. 柱

(1) 柱主筋の継手位置



※柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

(2) 柱主筋の定着



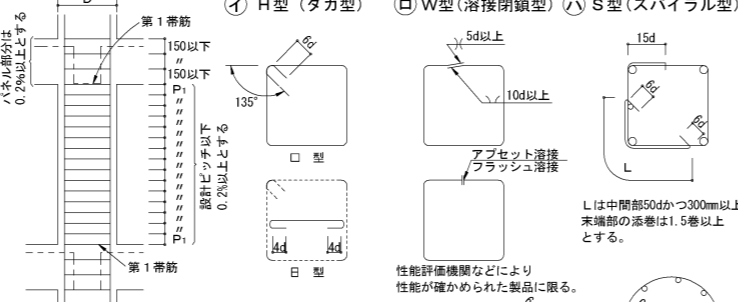
柱、梁の定着は2又は1.2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。

鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

柱頭補強か鉄筋 監理者の承認が必要 補強か鉄筋 主筋と同径

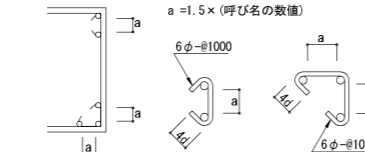
柱脚部補強か鉄筋 監理者の承認が必要 補強か鉄筋 主筋と同径

(3) 帯筋

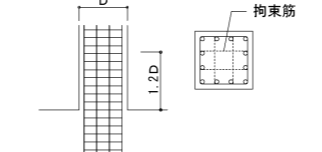


注1. 第1帯筋は、梁つらに入れる。
注2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注3. フックおよび継手の位置は、交互とする。

(4) 寄せ筋の保持



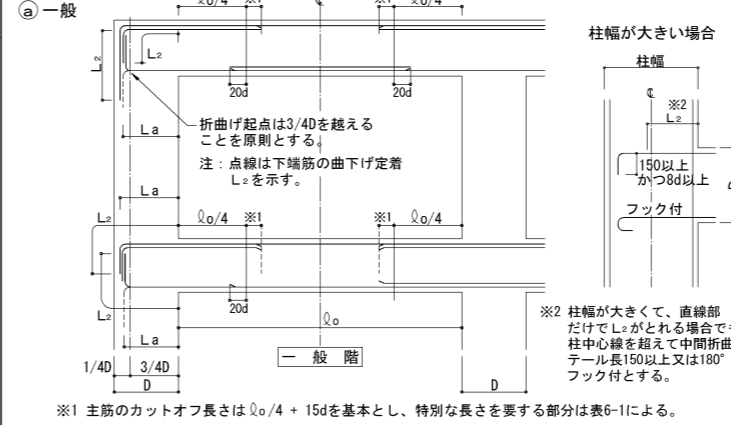
(5) 柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。
拘束筋は以下による。
□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻つ
□図示による

6. 大梁

(1) 定着



※1 主筋のカットオフ長さは $l_0/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

(2) 大梁主筋の継手 (SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。)

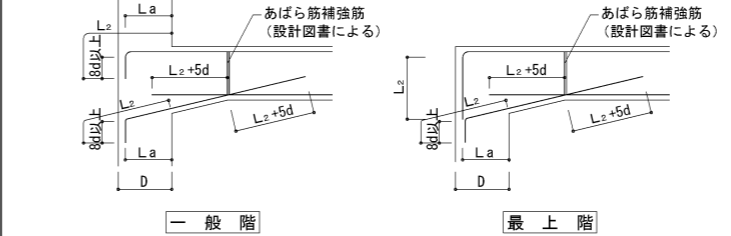
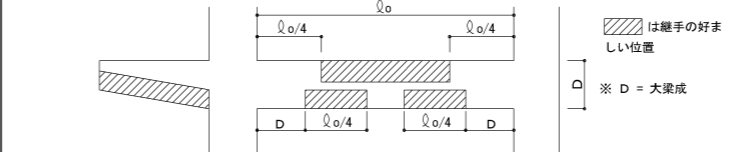


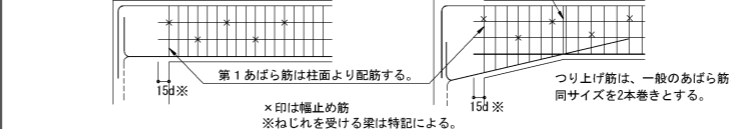
表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)

部材名	$l_0/4$ に加える長さ	部材名	$l_0/4$ に加える長さ

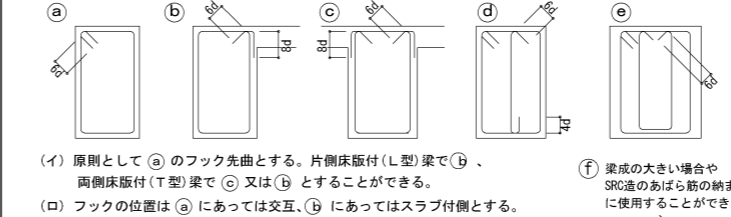
(2) 大梁主筋の継手 (SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。)



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



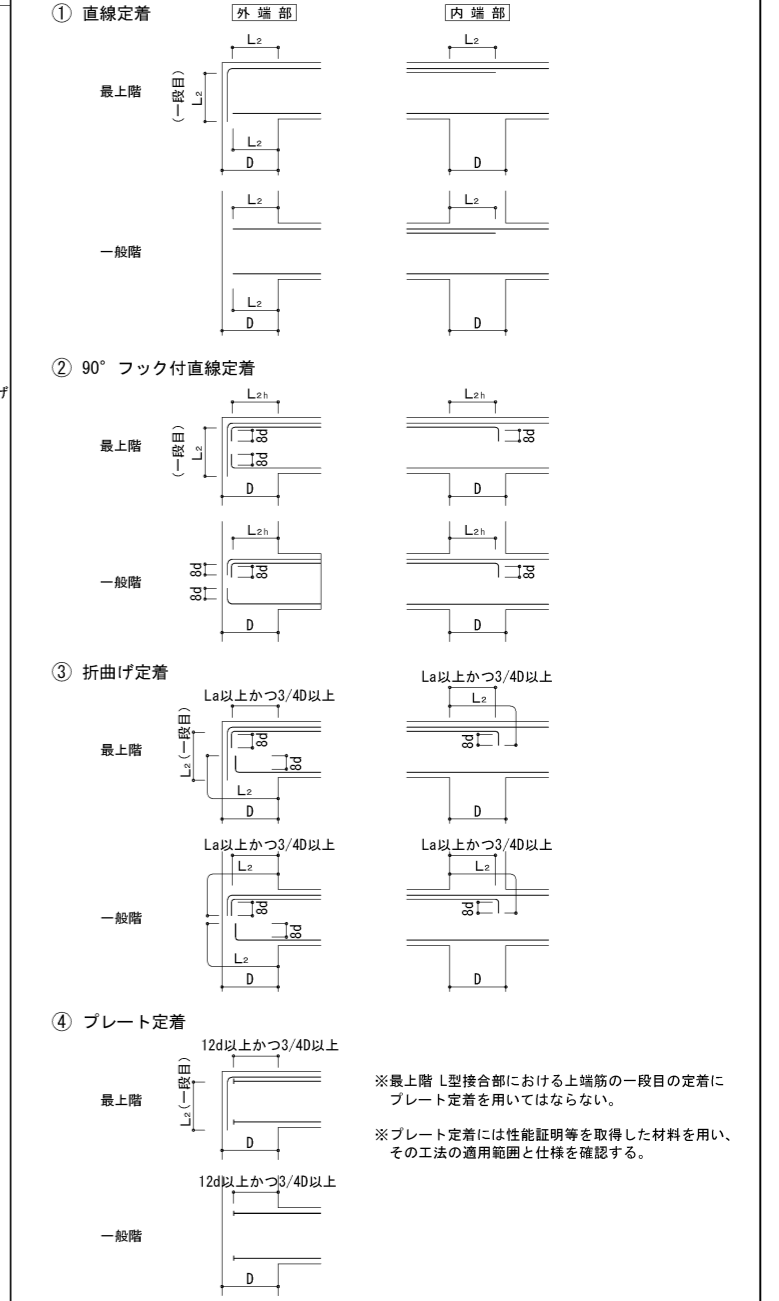
(4) あばら筋の型 (注、床版がない場合は135°以上のフックとする。)



(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D < 600 不要	2-D10 1段
	600 ≤ D < 900	4-D10 2段
	900 ≤ D < 1200	D10@300以内
	1200 ≤ D	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

(6) 梁主筋の定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。
※プレート定着には性能証明等を取付した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

工事名称	第3分団第2部詰所新築工事	
図面名称/縮尺	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	図面番号
設計年月日	令和 7年11月28日	S-04
設計者	構造設計一級建築士(第8278) 戸祭 雄博	
発注者	那須町建設課	